

調査データで見る「入社に向けた内定者フォロー」

2019年9月発行

正式内定解禁日である10月1日に内定式を開く企業は多いが、その後、入社までの半年間もフォローは続く。近年は採用戦線の早期化により、企業理解の浅い学生にも内定が出ているケースもあり、入社までのフォローアップは重要性を増している。

今春入社者が卒業を控えていた春休みの時期に実施した調査データを基に、学生は内定期間中をどのような気持ちで過ごし入社を迎えているのか、また内定後フォローの実態や影響について検証したい。

目次

- [1] 入社直前の心境
- [2] 内定期間中の不安
- [3] 内定後に受けたフォロー
- [4] 内定後に出された課題や研修
- [5] 内定後の課題やフォローの負担

調査概要

調査対象：2019年3月卒業の大学4年生のうち、就職先企業が決まった人
(理系は大学院修士課程2年生含む)

回答人数：906名

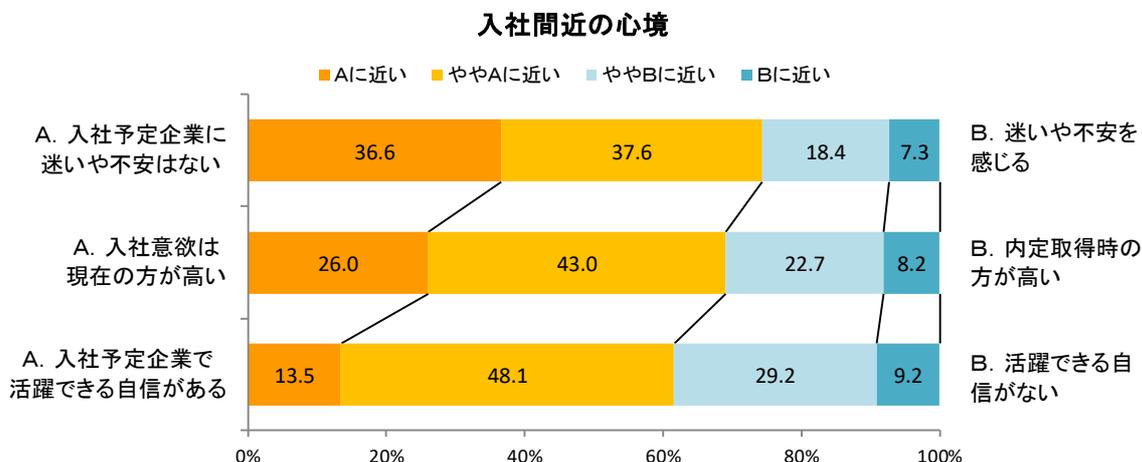
調査時期：2019年2月15日～3月4日

調査方法：インターネット調査法

サンプリング：キャリアタス就活2019 学生モニター

[1] 入社直前の心境

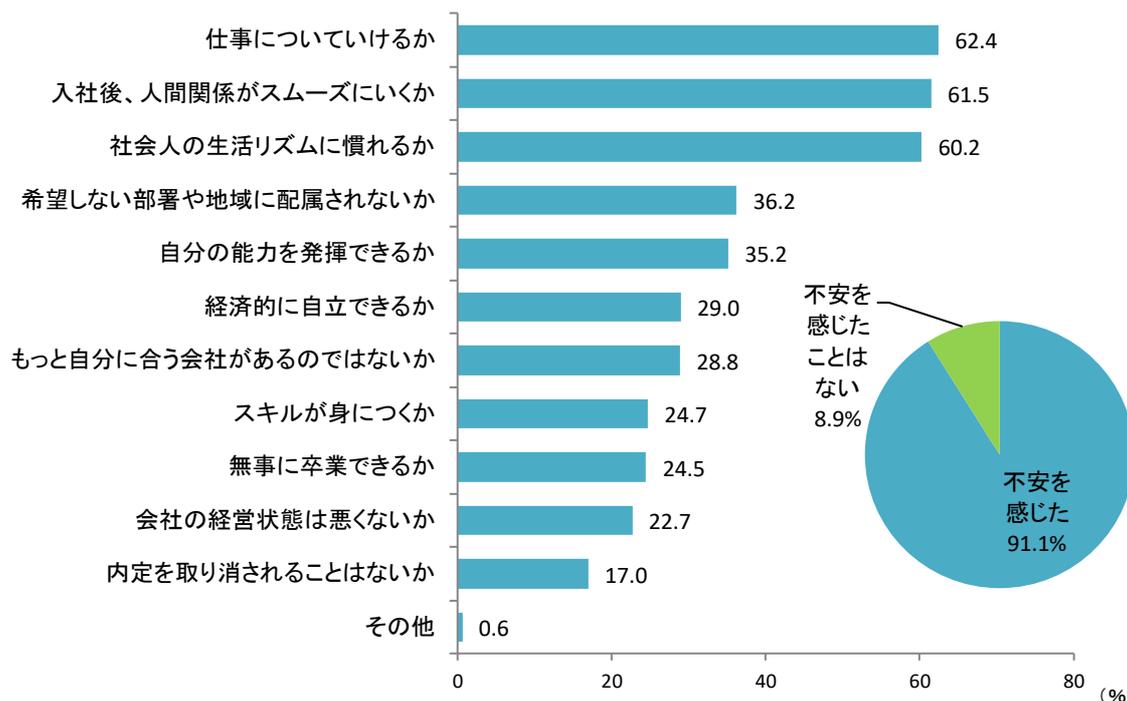
入社を間近に控えた心境を尋ねてみた。入社予定企業への迷いや不安については、7割強が「ない」と回答したが(計74.2%)、残りの2割強は入社直前にもかかわらず、迷いや不安を感じている。入社意欲については3割強(計30.9%)が、内定取得時よりも下がっていた。また、4割近くは「入社後に活躍できる自信がない」と回答するなど、企業には、内定者が安心して入社を迎えられるような工夫が求められている。



【2】内定期間中の不安

内定期間中の不安について尋ねると、「不安を感じた」と回答した学生は9割超に上った(91.1%)。内定学生の大半が入社まで何らかの不安を感じて過ごしていることがわかる。具体的には、「仕事についていけるか」が最も多く(62.4%)、次いで「入社後、人間関係がスムーズにいくか」(61.5%)、「社会人の生活リズムに慣れるか」(60.2%)が僅差で続く。学生から社会人へという立場の変化を前に、不安が増していることがうかがえる。

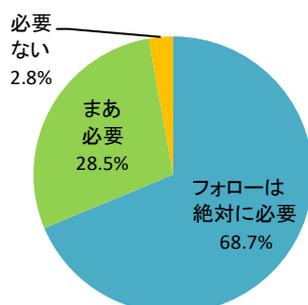
内定後から入社までに感じた不安



■内定期間中の不安について

- 就職活動を早く終えてしまったため、もう少しやっていたら良かったのではと思うこともある。 <文系男子>
- 社会人と学生の研究ではまた違うため、ついていけるのか不安はある。 <理系男子>
- これから週5日働くということが、未だに信じられません。体力的な不安があります。 <文系女子>
- 社内での調整等はあるとは思いますが、本来の志望業務を本当にやらせてもらえるか不安。 <理系女子>
- 人事の方としかお話ししたことがなく、様々な方が働いているため、人間関係をうまく築けるかが心配です。 <文系男子>

■参考① 内定者フォローの必要性／企業調査より (2019年2月)



新卒を採用している企業に、内定後のフォローの必要性について考えを尋ねた。「フォローは絶対に必要」という回答が7割近くに上り(68.7%)、「まあ必要」を合わせると9割を大きく超える(計97.2%)。

- ・安心して入社までの日々を過ごせるよう若手先輩社員との交流の場を設けている。 <建設・住宅・不動産>
- ・本当に当社への入社に納得しているのか疑問に感じる点はあるので、今後は内定者フォローに力を入れたい。研修等に力を入れて積極的に関わっていきたいです。 <食品>

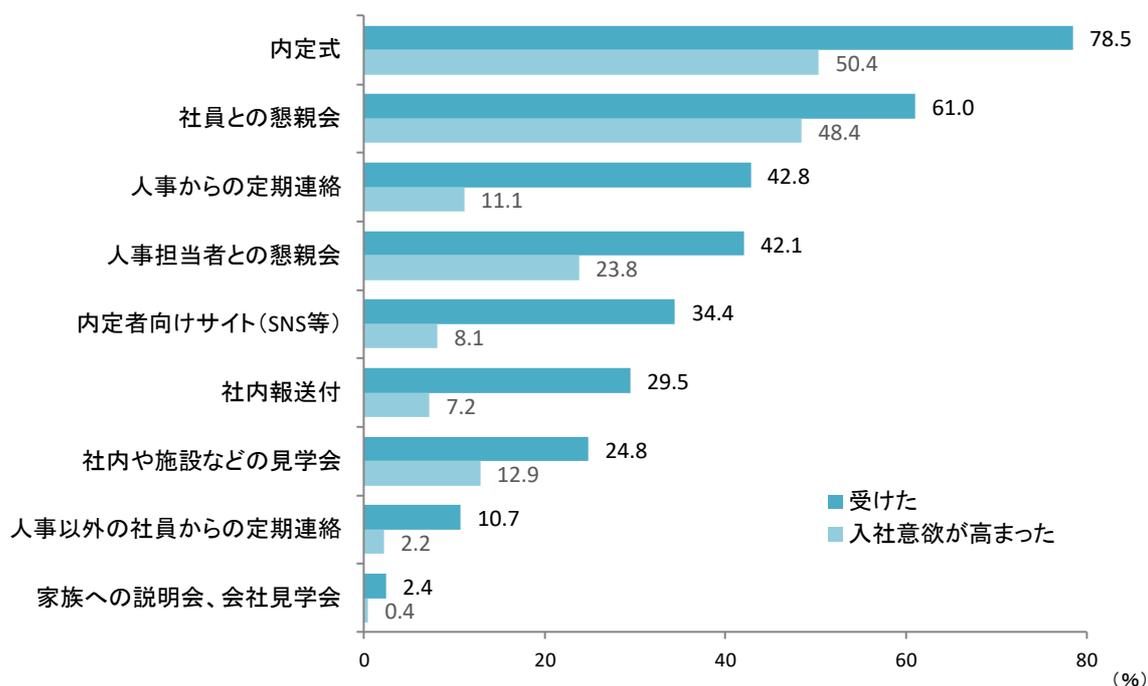
[3] 内定後に受けたフォロー

入社予定企業から内定期間中に受けたフォローの内容を尋ねたところ、最も多いのは「内定式」(78.5%)だった。これに「社員との懇談会」(61.0%)が続く。

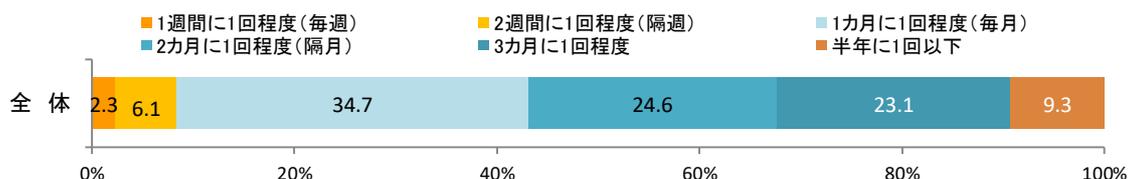
実際に受けたフォローのうち入社意欲が高まったものを回答してもらった。これを見ると、入社意欲向上への寄与度が高いのは「社員との懇談会」や「内定式」、「人事担当者との懇談会」など対面で行われたもので、特に「社員との懇談会」は参加した学生の多くが、入社意欲が高まったと回答した。

内定後にどのくらいのペースでフォローを受けたかを尋ねると、最も多いのは「1カ月に1回程度(毎月)」で3割強(34.7%)。次いで「2カ月に1回程度(隔月)」24.6%、「3カ月に1回程度」23.1%の順。

入社予定企業からのフォロー



内定後に受けたフォローのペース



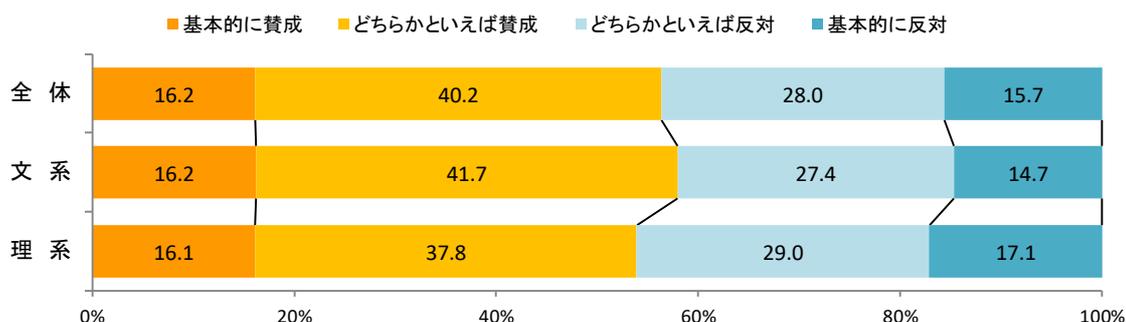
■ 入社意欲が高まったエピソード、シチュエーション

- 内定式で内定通知書を役員の方に手渡しをいただいた時には、入社意欲がとても高まった。 <文系男子>
- 内定式では同期となる人とたくさん会うことができ入社が楽しみになった。社内報では、パンフレットなどに社員の情報などが掲載されており、入社後に仕事に取り組む意欲が高まった。 <理系女子>
- 内定者懇談会で社長の話を聞くことができ、会社の方針や社員に対するスタンスがよくわかり、入社意欲が高まった。 <文系女子>
- 元々入社意欲はあったが、社内見学で自分が働く姿を想像することができ、さらに高まった。 <理系男子>
- 懇談会で若手社員から中堅、ベテランの方まで様々な世代の社員から、ざっくばらんに話を聞いたこと。 <文系男子>
- 研究室に人事担当の方がいらっしゃって、先生とお話しをさせていただいたこと。 <理系女子>

[4] 内定後に出された課題や研修

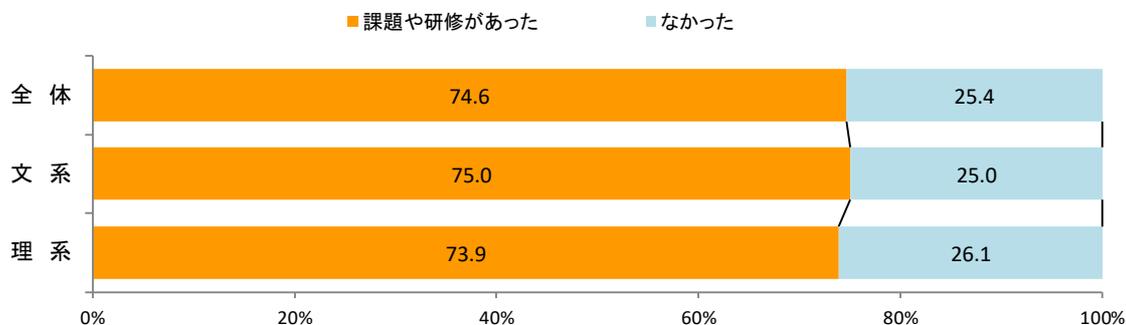
内定期間中に研修や課題が出ることへの賛否を尋ねた。最も多いのは「どちらかといえば賛成」という回答で、40.2%。ここに「基本的に賛成」（16.2%）を足し合わせると56.4%となり賛成派が半数を超える。文理別に見ると、文系に比べ理系は賛成派がやや少ないが、それでも過半数が賛成と回答した（計53.9%）。

内定期間中に研修や課題が出ることへの考え

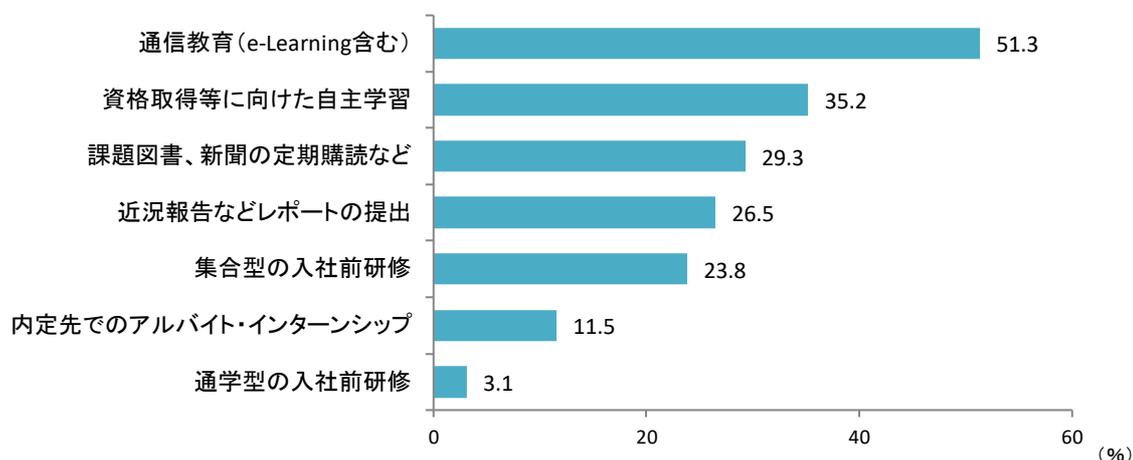


実際、内定期間中に課題や研修があったという学生は74.6%。4人に3人の割合に上る。文理での大きな違いは見られない。出されたものの形式として最も多いのは「通信教育(e-Learning含む)」で51.3%。次いで「資格取得等に向けた自主学習」(35.2%)、「課題図書、新聞の定期購読など」(29.3%)の順。

内定後の課題や研修の有無



内定後に出された課題や研修

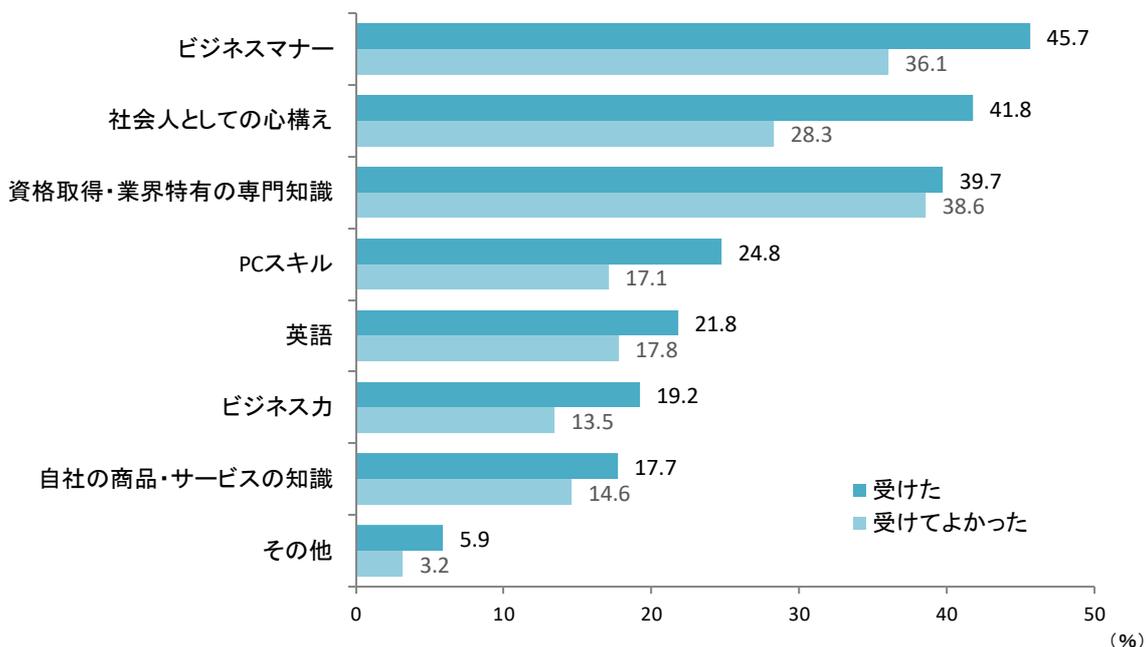


課題・研修の学習内容（分野）についても尋ねると、最も多いのは「ビジネスマナー」（45.7%）で、他に「社会人としての心構え」も4割を超えている（41.8%）。「資格取得・業界特有の専門知識」が僅差で続く（39.7%）。

学習内容については、実際に受けたもののうち「よかったと思うもの」も回答してもらった。最も多いのは「資格取得・業界特有の専門知識」で、受けた人のうち大半がよかったと答えた。比較的時間のある入社前に取り組めたことを前向きに捉える学生が多かった。

語学の学習や資格取得といった自己啓発に対し、企業側のサポートを望む学生は少ない。希望者がいれば、企業側から何らかの学習支援があってもよいだろう。

課題や研修の学習内容



- ビジネスマナー＝身だしなみ、敬語、電話、来客対応など
- 資格取得・業界特有の専門知識＝簿記、宅建、情報処理技術者、FP、販売士検定など
- ビジネスカ＝営業力、ロジカルシンキング、プレゼンテーションなど
- 英語＝英会話、TOEIC、ビジネス英語など

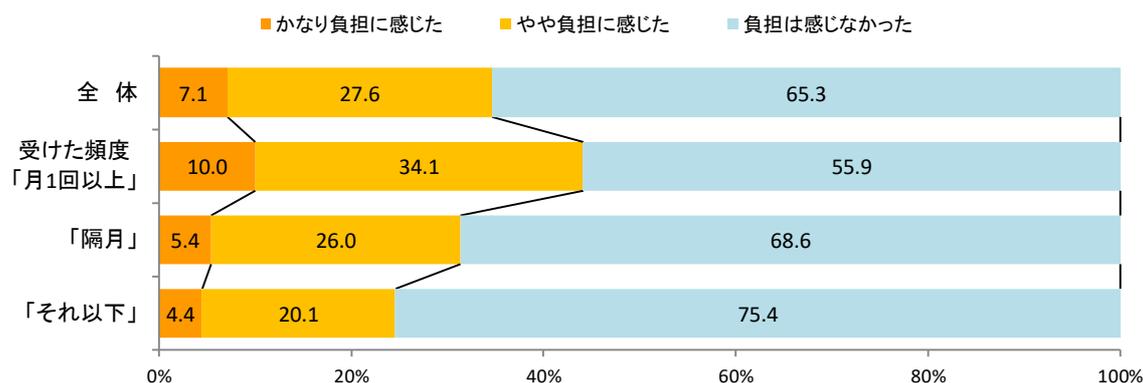
■ 内定後に受けたフォローや課題について、具体的な内容・感想

- 社会人に必要なマナーなどを事前に学べる機会があるので、良かったです。 <文系男子>
- 月に一度送付される社内報によって、もう学生ではないという気持ちがりセットされた。 <文系男子>
- 課題図書について読書感想文を書く課題があり、「働くとは何か」について考えさせられた。面倒ではあったが、普段落ちていて本を読むことがあまりないため、いい機会になったと思う。 <文系女子>
- 英語の課題が与えられて満足している。英会話を含む内容で、非常に英語力が上がった。しかし、簿記の資格取得の課題がなされ、研究で忙しいので非常にうんざりであった。 <理系男子>
- 業界紙のスクラップブックを作る課題が10月から3月まで出た。流通や食品など内定先の業界に絞った記事ばかりなので、読むのが楽しみの一部にもなっていた。 <理系女子>
- 社会人としての常識だけでなく、PCスキルの研修があったのはよかった。 <文系女子>
- 自社施設や取引先企業の工場見学が面白かった。また、チームビルディング研修も押し付けがましくなく、楽しくできた。 <理系男子>

【5】内定後の課題やフォローの負担

就職決定企業からの内定後のフォローや課題に対し、学業の負担に感じるがあったかどうかを確認してみた。「かなり負担に感じた」(7.1%)と「やや負担に感じた」(27.6%)を合わせると34.7%となり、3人に1人が負担を感じていた。これをフォローを受けた頻度ごとにグループ分けをして比較してみたところ、毎月フォローや課題があったグループでは半数近くが負担を感じていた。入社に向けフォローが大切なのは間違いないが、内定者に負担を強いることのないよう配慮も必要だ。

内定後のフォローや課題への負担感



■内定後のフォローや課題について、企業への意見・要望

- 課題の提出時期が卒業論文と丸被りで負担だったので、提出期限は3月くらいがよかった。 <文系女子>
- 研究で忙しいので、あまり多くの課題は出して欲しくない。 <理系男子>
- 授業はほとんどなく、負担はなかった。ただ、いつ頃送られてくるのかは教えて欲しかった。 <文系男子>
- ビジネスマナーについてももう少しフォローしてほしいと感じる。他社に内定している友人の話や不安になる。 <文系女子>
- あまりフォローがなかったので、こちらがやきもきすることがあった。 <理系男子>
- 入社すれば嫌でも働き勉強するので、入社まではなるべく放っておいて勉学に専念させて(遊ばせて)欲しいと思う。 <文系女子>
- 人事担当の方とのやり取りが定期的に行われていて心強いと感じた。 <理系男子>
- 資格取得を推奨しているものの、具体的にどの資格が評価されるもので、役に立つのか、社内推奨資格一覧などを知りたかった。 <文系男子>

■参考② 内定式で工夫していること／企業調査より (2018年10月)

内定式を行っている企業に、工夫していることや課題などを尋ねた。

- ・「式典」としての華やかさや重厚感を演出している。 <専門店>
- ・「覚悟」と「楽しさ」のメリハリを大切にしています。 <サービス業>
- ・グループで行動するようにし入社前からコミュニケーションをとれる関係作りをしている。 <専門商社>
- ・お互いを知れる場を設けているつもりだが、採用人数が多いと自己紹介の方法に困る。 <輸送用機器>
- ・何度か集まる機会があるので、やることが被らないように、飽きさせない内容にするよう、工夫していると同時に、課題でもあります。 <サービス業>